

第 142 回 国立大学法人新潟大学経営協議会 議事概要

- 1 日 時** 令和 7 年 6 月 24 日（火）13 時 00 分～16 時 05 分
- 2 場 所** 新潟大学駅南キャンパス ときめいと 講義室 A（Zoom 会議併用）
- 3 出席者** 構成員 15 名：
 牛木学長、川端委員、澤村委員、末吉委員、染矢委員、堀江委員、
 岩田委員、小田委員、片峰委員、福田委員、三輪委員、森委員、
 （欠席：坂本委員、伊藤委員、佐久間委員）
 オブザーバー：
 菊地特命理事、富田特命理事、岡監事、赤塚監事、（欠席：塚本理事）

4 議事概要について

第 140 回（令和 7 年 3 月 21 日）、第 141 回（令和 7 年 5 月 26 日）の議事概要が確認された。

5 審議事項

（1）学則等の一部改正等について

学則等の一部改正等について、資料 1 に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

なし

（2）令和 6 事業年度財務諸表等について

令和 6 事業年度財務諸表等について、資料 2 に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

○：

- ・経常費用の増加に対して収益も増加しており、令和 5 事業年度と比べて大学運営が良い方向へダイナミックに動いている印象を受ける。
- ・病院セグメントが人件費の増加分を病院収益でカバーできている点も良い。今後諸経費の増加が必須であるため、継続的な改革を期待している。

○：

- ・大学セグメントにおいて、令和 5 年度、令和 6 年度と目的積立金取り崩しの数字が大きなマイナスになっているが、令和 4 年度以前の状況と今後の見通しについてうかがいたい。

■：

- ・経常利益がマイナスとなっている主な要因は、過去に投資した施設や設備の減価償却費が累積しており、それに見合う投資ができていないためと理解している。これは、国立大学一般論として、施設の老朽化と国からの施設整備費・財政投資不足の証左でもある。事業活動全体としては、外部資金獲得などで近年増加傾向にあるが、今後も人事院勧告による人件費の増が想定されるので、それに見合う国からの予算措置を期待しつつ、大学としてプラスになるように事業活動を進めていきたい。

○：

- ・セグメント別の収支報告が示されており、非常に興味深い。全体としては業務損益がプラスとなっているが、マイナスとなっているセグメントへの指導やあり方についてうかがいたい。

■：

- ・業務損失が出ているセグメントについて、収益面では、費用と収益の均衡を図るために外部資金獲得に努めてもらうよう促している。費用面では、設備投資の減価償却が影響していると推測される。今後分析を行い、各セグメントへの対応について検討していきたい。

（３）令和８年度国立大学法人運営費交付金の概算要求事項（案）について

令和８年度国立大学法人運営費交付金の概算要求事項（案）について、資料３に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

〔主な意見及び質疑等　○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

○：

- ・運営費交付金の教育研究組織改革については、昨年あたりから件数を絞り、１件あたりの配分額を増やす方針に変わったと理解している。これは人件費高騰等に対応するため、本部が自由に使える部分を上乘せする考え方があったと思うが、今回の要求もそれを意識し、新規事業を１件に絞られたのか。また、この予算から本部が間接経費的に一部を吸い上げ、人件費高騰分やエネルギー費に補填するようなことが実際に行われたのか、あるいは行われる予定があるのか。

■：

- ・文部科学省との折衝で、現在は第４期の途中であるため、新規よりも継続事業の拡充の方が採択されやすいと言われていることと、新規は大きい玉でということで、新規事業を１件、拡充要求２件とした。
この予算から何かを補填することは現在考えていないが、採択された場合、大学院改組や学部教育にかかる費用を補い、結果的に人件費やシステム関連で余力が生まれる可能性はある。

○：

- ・私の理解では、補助金の間接経費のような使い方もできるように、件数を減らして１件あたりの額を増やす方向へ文部科学省が舵を切ったと考えていたが、その認識を確

認したい。

■：

- ・その点については改めて確認する。

(4) ブレイン&メディカル・イノベーションセンター（仮称）建設工事について

ブレイン&メディカル・イノベーションセンター（仮称）建設工事について、資料4に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

○：

- ・今回想定していなかったことが影響し工期が遅れたことは理解できるが、大学側としても建設工事の進行管理について、再発防止のために学ぶべき点はなかったのか。
- ・6億円超の自己財源を流用することによって何か問題が起きることはないか。

■：

- ・今後は、有事の際に適切に対応できるよう余裕を持った工期設定を行うこととしたい。

■：

- ・自己財源については、大学基金は施設建設のために積立てていた余剰分であり、科研費の基金分間接経費も毎年影響なく使えるよう留保していた額である。学内予算調整分や寄附金による学内融資も、既存の活動を妨げない範囲の余剰金から充当したため、一般会計や各活動に影響はない。

(5) 重要財産の不用の決定について

重要財産の不用の決定について、資料5に基づき審議が行われ、原案のとおり承認された。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

なし

6 報告事項

(1) 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる本学の適合状況等について

澤村理事から、国立大学法人ガバナンス・コードにかかる本学の適合状況等について、資料6に基づき報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

なし

(2) 令和6年度資金運用状況について

報告事項(2)については、口頭による説明は省略し、委員において資料7を確認した。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

なし

(3) 監事監査意見書(令和5年度要検討事項及び令和3年度～4年度継続事項)に係る対応状況について

岡監事から、監事監査意見書(令和5年度要検討事項及び令和3年度～4年度継続事項)に係る対応状況について、資料8に基づき報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

なし

(4) 令和7年度医歯学総合病院収支計画について

菊地特命理事から、令和7年度医歯学総合病院収支計画について、資料9に基づき報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

○：

- ・短期的な資金バランスについて、前期の41億円に対し今期の借入金返済後の残高が24億円となっているが、運転資金としてどの程度の資金確保を目指すのか、また、そのために借入金をどのように活用していくのか。

■：

- ・病院側は最低限10億円程度の期首残高を目指しており、借入金は最大限に活用したシミュレーションとなっている。4月には運営費交付金が23億～24億円入金されるため、これを含めて最低10億円の確保を目指す。

○：

- ・他の国立大学病院と比較して、新潟大学病院の経営状況は総じて良好で、病床稼働率約90%を維持している点も素晴らしい。人口動態やコロナ禍後の患者の受療行動の変化を考慮し、今後も中長期的に90%を維持する見通しはあるか。また、他の大学が病床を削減し、削減分を他の収益スペースに充てる試みを始めているが、新潟大学として当面そのような見解はあるのか。

■：

- ・現在も病棟の一部閉鎖や看護師ICUへの配置転換などで対応しており、稼働率を85%～90%に維持しているが、今後はさらに病床削減も視野に入れる必要があると認識している。周産期医療においては、出産数の減少に対しスタッフを単純に減らせない側面もあるが、可能な範囲で流動的な人員配置を行う等して病床数の適正化に取り組んでいきたい。また、新潟県内の他病院も財政事情が厳しいため、周囲の病院の稼働状況も踏まえ、本学として適正な病床数を判断していく必要がある。

(5) 令和7年度入学者選抜試験実施状況について

吉井学務部長から、令和7年度入学者選抜試験実施状況について、資料10に基づき報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

なし

(6) 令和6年度卒業(修了)者の進路状況等及び就職支援の取組について

吉井学務部長から、令和6年度卒業(修了)者の進路状況等及び就職支援の取組について、資料11に基づき報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

なし

(7) 学長選考候補者の推薦について

石川総務部長から、学長選考候補者の推薦について、資料12に基づき報告があった。

〔主な意見及び質疑等 ○：学外委員の発言、■：本学側の発言〕

○：

- ・学長選考候補者の推薦について、経営協議会が教育研究評議会と並んで学長候補者を推薦できるという重要な役割があるにもかかわらず、学長選考・監察会議に属していない学外委員への情報提供が不足しており、実質的な対応が難しい。学外委員が推薦の権限と責任をしっかりと果たすためには、学外委員全体で誰を学長候補者として推薦するのか複数回の意見交換を行い、意見をまとめるプロセスが必要である。

7 意見交換

(1) 新潟大学の大学院改革について

末吉理事から、新潟大学の大学院改革について、参考資料1に基づき説明があり、委員において意見交換がされた。